

# 多高通信

第139号 平成29年2月23日発行



さどく ゆたかに たくましく  
宮城県多賀城高等学校

## 橘復興副大臣来校!



1月13日、橘復興副大臣が、宮城県の被災地自治体への訪問途中に本校へ立ち寄りられました。短い時間でしたが、本校の防災・減災学習の様子を説明することができました。副大臣からは、本校が現在取り組んでいる活動の継続と発展についての応援の言葉をいただきました。また、副大臣の地元である富山の県立高岡西高等学校と本校の交流の橋渡しをしてくださいました。学校からは「文化祭での売上金を防災活動や復興に役立てて欲しい」との申し入れがあり、生徒会での防災・減災活動に役立てていくつもりです。今後、本校が行う防災・減災学習について復興庁としてもバックアップしていただくこと、機会があれば再来校したい言葉を残し、次の訪問地に向かわれました。

## アスクル株式会社 学習成果発表会

1月26日、東京の豊洲にあるアスクル株式会社を会場に「現地寄贈先高校生からの学習成果発表会」が開催され、本校を代表して2名が参加しました。昨年、アスクル株式会社とその協賛企業により、東日本大震災で被害を受けた複数の高校への復興支援事業が行



われ、その一環として本校は体育館設置の大型スクリーンとプロジェクトの寄贈を受けました。このことについて、今回、宮城県の復興状況と学校における防災教育、そして寄贈品の活用状況などを報告しました。

■小松愛佳(2年1組 塩竈二中出身)

アスクル株式会社は、会社と違って想像するような堅苦しさのないオフィスで、その開けた一角で発表会が行われました。東京での学校紹介、社員の方々の気遣い、他校の発表を通して、様々なことを吸収できた良い経験になりました。そして、沢山の会社の協力があった多高にスクリーンが寄贈されたことに改めて感謝したいと思います。

## 多賀城ロータリークラブより 「東日本大震災メモリアルデー」の 開催協力金をいただきました

佐藤仁一郎会長(左)と小泉校長



1月27日、多賀城ロータリークラブの佐藤仁一郎会長が本校を訪れ、3月4・5日に本校主催で行われる「東日本大震災メモリアルデー」の開催協力金として本校教育振興会に30万円の寄附をいただきました。

この行事は、これまでも本校と交流がある全国の高校を招待し、東日本大震災の追悼に加え、その経験と教訓を後世に継承し、さらには国内外の被災に貢献する若者を育成する目的でおこなわれます。自らの防災活動や課題研究などの成果を発表するとともに、ワークショップなどの意見交換を行い、より交流を深めようというもので、今年度が初めての企画になります。

佐藤会長は、「若い世代の人たちが、防災や減災を考えてくれるのはとても心強い。地元ロータリークラブとしては是非応援したい」と述べられました。協力は小泉博校長が丸山隆本校教育振興会会長に代わり受け取りました。

## 本校より お知らせ

3月4・5日、本校主催の「東日本大震災メモリアルデー」を行います。全国の高校生が本校に集まり、課題研究の成果発表やワークショップ等を通して、震災の経験と教訓や今後の防災・減災活動について考えます。

## みやぎ高校生フォーラム

私たちの志と地域貢献

1月28日、「平成28年度みやぎ高校生フォーラム」が宮城県庁講堂を会場に行われました。本校からは生徒会執行部の2名が参加し、「私たちの志と地域貢献」というテーマでポスターセッションを行いました。本校が取り組んでいる防災活動を通して地域貢献について発表しました。



■小畑友哉(1年2組 しらかし台中出身)

今回、各学校の学びや志に関する取り組みなどを様々な形で知ることができ、自分自身にとって良い経験となりました。普段、他校の取り組みなどを知る機会が少ないので、今回のフォーラムで吸収できたことを生かして今後の生徒会活動の運営を行いたいです。

## 神戸大学附属中等教育学校 SGH公開研究会に 参加しました

2月3日、神戸大学附属中等教育学校でSGH(スーパーグローバルハイスクール)公開研究会が開催され、その中で本校との学校間交流について、本校生徒4名が合同で発表してきました。神戸大学附属中等教育学校と多賀城高校は、交流活動を継続しています。



発表の様子

訪問の4日前には Skype を利用して発表内容の打ち合わせを行い、当日発表前では役割分担や発表会場の下見、役割分担の最終確認を行いました。

発表は体育館で実施され、両校の特色ある取組の紹介した後、これまでの両校の交流活動などを中心に、交流を通して得たものや、感想、課題などをパネルディスカッション形式で発表しました。発表後は両校生徒で交流会を行いました。防災に関するゲームや、各校の活動に関わった経験から感じた自分たちの思いや、将来の学校間の交流の在り方などについての意見交換などを行いました。



まち・コミュニケーションの訪問

翌4日には、長田区にある特定非営利活動法人「まち・コミュニケーション」を訪れて阪神淡路大震災当時の長田区の様子とその後復興について研修しました。その後「人と防災未来センター」も見学してきました。

## 第4回全国海洋教育サミット

2月5日、東京大学伊藤国際学術研究センターを会場に第4回全国海洋教育サミット「海洋教育の新たな潮流」が開催されました。本校は海洋教育促進拠点に認定されており、小泉校長がシンポジウムのパネリストとして本校の取り組みについて発表しました。



シンポジウムの後にはポスターセッションが行われ、生徒会から「多賀城高校における防災・減災学習と生徒会活動を通して」、「災害科学科から「土壌中のイオン濃度の測定と環境変化の一考察」の2つを発表しました。多くの方が発表を聞きに来てくださり、多賀城高校の活動に感心していました。また、他の発表を聞くことで、参加した生徒も大いに刺激を受けてきました。

# フアンシリテーター養成講習

2月4日、東北学院大学の和田正春教授と東北学院大学の学生7名に来院していただき、生徒会執行部15名を対象に第2回フアンシリテーター養成講習を行いました。



今回の講習は1月5日に行われた講習の続編で、3月のメモリアル行事で行うワークショップの模擬演習という位置付けで、生徒がフアンシリテーターを務めて行いました。生徒たちが事前に用意した進行要領でワークショップを行ってみると、ゴールの明確化や使命を与えることなど多くの課題が見つかり、和田先生や大学生から多くの助言やご指摘を頂きました。



2回の講習を通して、フアンシリテーターが果たすべき役割やワークショップに必要なことを学ぶことができました。3月のメモリアル行事に向けてさらに議論や演習を重ねていきたいと思えます。

## 「新しい東北」

### 復興庁から

### 顕彰されました

復興庁は、東日本大震災の発災から5年が経過し、今年度から復興・創生期間に入ったことを機に、現在、被災地で進む「新しい東北」の実現に向けた取組について、大きな貢献をしている個人及



び団体を顕彰しています。その結果、本校は集中復興期間5年間の活動を顕彰する「復興功績顕彰」に選定されました。選定された理由は、生徒が地域の住民の方々へ聞き取り調査を行い津波標識を設置する活動や、自治体と連携して被災状況を説明したり案内したりする「まち歩き」、地域や近隣学校や社会施設などと協力した防災に関する活動を実施するなど、「新しい東北」の実現に向けた取組に大きな貢献があった、ということでした。

2月9日、「新しい東北」交流会 in 仙台の中で行われた顕彰式には、学校代表として木村千恵生徒会長が出席し、記念の盾をいただきました。また、2月16日には、県庁を表敬訪問し、高橋仁教育長に顕彰の報告を行いました。

## 多賀城市「青少年善行者」(団体)

### 野球部が表彰されました!

2月10日、本校野球部が、2006年4月より続けてきた学校周辺の清掃活動に対して多賀城市より表彰を受けました。野球部は部員全員約40人で、週1回朝か放課後、学校から下馬駅に向かう道路のゴミ拾い清掃を行っています。また、冬期は積雪があった日の朝の始業前に、部員たちが自主的に学校の敷地やその周辺の雪かきを行っています。



発端は、当時野球部監督であった石垣光朗教諭の「地域に愛されるチームになろう」という考えに部員たちが賛同して開始したことでした。そのイデオロギは現在の渡邊浩一監督及び部員たちにも引き継がれ、今の活動に至って



います。また、その取り組みは他の部活にも波及し、今ではサッカー部なども率先して清掃活動や雪かきに参加しています。

部員たちは地域の人々から「ありがとう」や「ご苦労様」など声掛けをしていただけることに大きな喜びを感じており、それが活動を続ける原動力になっています。

## 吹奏楽部 クラリネット8重奏

■部長 阿部竜也(2年6組 中野中出身)

今回このような賞を頂くことができたのは、これまでの先輩方が継続してくださったおかげなので、今後自分たちが継続していきたい、少しでも地域に貢献できるチームを目指したいと思います。誰かから見返りをもらおうということではなく、自分たちにできることを当たり前のようによつていけるようにしていきたいです。

この賞を頂いたことを誇りに思い、今後は試合でも結果を残して、地域の皆様や学校に良い報告ができるよう、野球部全員で頑張っていきます。

## 吹奏楽部 クラリネット8重奏

### アンサンブルコンテスト東北大会

## 祝 金賞受賞!

2月12日、第44回全日本アンサンブルコンテスト東北大会が山形県酒田市民会館「希望ホール」で開催され、クラリネット8重奏が金賞を受賞しました。おめでとう!

## クラリネットパトリリーダー 阿部夏樹



(2年1組 矢本一中出身)

アンサンブルの練習を始めてから、本当に多くの方々から応援をいただきました。地区吹奏楽祭やウィンターコンサートの際に温かい言葉をいただいた地域の方、時間を削って私達のためご指導くださった先生方、アドバイスや励ましの言葉をいただいた先輩方、出発の時にまで生演奏で応援してくれた部員の皆さん、様々な方々に支えられての金賞受賞になりました。

今回演奏した「ドデカフォニック エッセイ」は例年とは曲想が違う現代曲ですが、自分達が気に入って選んだ曲でした。不協和音のバランスや各パートのフレージングが難しいところもありましたが、同じ旋律を担当しているパートで合わせることで一体感を出すことを心がけて演

奏しました。本番は、吹奏楽部の代表のつもりで部員の想いも音に込めて演奏することができました。結果は、金賞を受賞して嬉しい気持ちですが、自分たちの目標にしていた全国大会出場には届かず悔しい気持ちも大きいです。夏に行われる全日本吹奏コンクールでは、この経験を生かし、全国大会に出場できるよう頑張りますので、今後とも多賀城高校吹奏楽部を応援よろしくお願いたします。

## 東北工業大学 新井准教授

### 特別授業

2月16日、東北工業大学工学部建築学科新井信幸准教授を迎え、1年生「くらしと安全A」の中の住環境分野「暮らしやすさと工夫」について、「仮設住宅と復興コミュニティデザイン」をテーマとした特別授業が行われました。



新井先生からは仮設住宅の概要、仮設住宅のタイプ、カスタマイズやリユースについてまず話がありました。仮設住宅を一棟建てるだけでなく多くの費用がかかること、最近では見なし仮設として民間の賃貸住宅を借り上げることが多くなってきていることなどが話されました。また、仮設住宅に若干の改良を加えることで使い勝手が良くなることを教えていただきました。また、仮設住宅から復興公営住宅への移行段階でのコミュニティのあり方について、仮設住宅で築いた多くのサークル活動や交流活動などのように復興住宅で引き継いでいくかという課題についてもお話をいただきました。

## 武田美月(1年5組 向洋中出身)

プレハブの仮設住宅の外に倉庫などを自分たちで造っても良いということに驚きました。自分たちで工夫し、いろいろなものを作ることによって、住み心地が良くなり、近所の方々との交流が増えるという利点があるということでした。

あすと長町の仮設の方々のコミュニティは、集会所でのイベントやクラブ活動で大きくなっていったことを知り、仮設住宅でも災害公営住宅でも、色々な案が出て、それを実行に移すことでコミュニティが充実し、住民の方々がより快適に過ごせているのだと実感しました。